

災害に対する備えを

4月14日21時26分熊本県熊本地方を震央とする地震（前震）が発生し益城町で震度7が観測され、28時間後の4月16日1時25分に、再び熊本地方を震源とする地震（本震）が発生し西原町と益城町で震度7が観測されました。この地震で多くの方が犠牲となり、今なお避難所生活をされている方もたくさんおられます。お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、負傷された方々を始め被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げます。熊本地震は1995年に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）と同規模の大地震だったそうだが、私も当時淡路島に医療支援に行きましたが想像を絶する景色であったことを思い出します。震災発生後は国立病院機構はじめ全国から災害医療チームが派遣され、高知病院からもDMATチームを熊本に派遣しました。熊本は比較的地震が起こる可能性が低いと言われていた地域のようなのですが、突然このような大きな地震が発生しました。最近、本当に大きな地震が多いような気がします。高知病院は2011年に初めて呼吸器外科の日野先生を中心にDMATチームが誕生し同時に災害拠点病院となりました。現在、複数のDMATチームができており災害に対する体制が少しずつ整えられつつあります。今年の4月日本医療マネジメント学会総会で会長施設の麻生飯塚病院のDMATチームから熊本地震の緊急報告がありましたが、震災発生後のチームの対応が非常に早く平常時から準備ができていることが伺えました。また、現場で参加した際、熊本赤十字病院の職員の対応が非常に優れており、日頃から災害に備えた訓練を熱心に行っている印象を受けたとの発表もありました。国立病院機構の会議では熊本医療センターの院長から震災後の病院の現状についての話がありましたが、400床以上の病床を持つ市民病院が大きな被害を受けたため非常に多くの患者さんが熊本医療センターへ受診してきたことや、被災を受けた職員が車の中で寝泊まりし患者対応にあたっていた等の話を伺いました。地震学者によると地震が「いつ」という予想は難しいが地震国である我が国ではいつでも、どこにでも発生する可能性があるとのこと。高知では南海地震を想定していますが、これ以外にも内陸型（活断層型）地震が発生する可能性もあり、災害に対する備えを行っていかねばなりません。高知病院も毎年災害訓練を行っておりますが、本当に災害が発生した場合に対応できるのかと言う疑問を持ちます。その意味から有意義な災害訓練を企画し実践することが必要ですし職員の全てが真摯に取り組むことが重要です。当院にも救急を含む災害医療に熱心に取り組む医師も増えてきており10月には大規模な災害訓練を行う準備も進んでいます。立地条件から高知病院は災害時には数少ない重要な病院になると予想されています。いつ、災害が起こっても病院として適切な対応ができるように意識を持って訓練にも取り組んでいただきたいと思いますし、充実した訓練を繰り返し行っていくことが重要と考えています。災害拠点病院の名に恥じないように準備していきたいと思いますので職員の皆さんには協力の程宜しくお願いします。